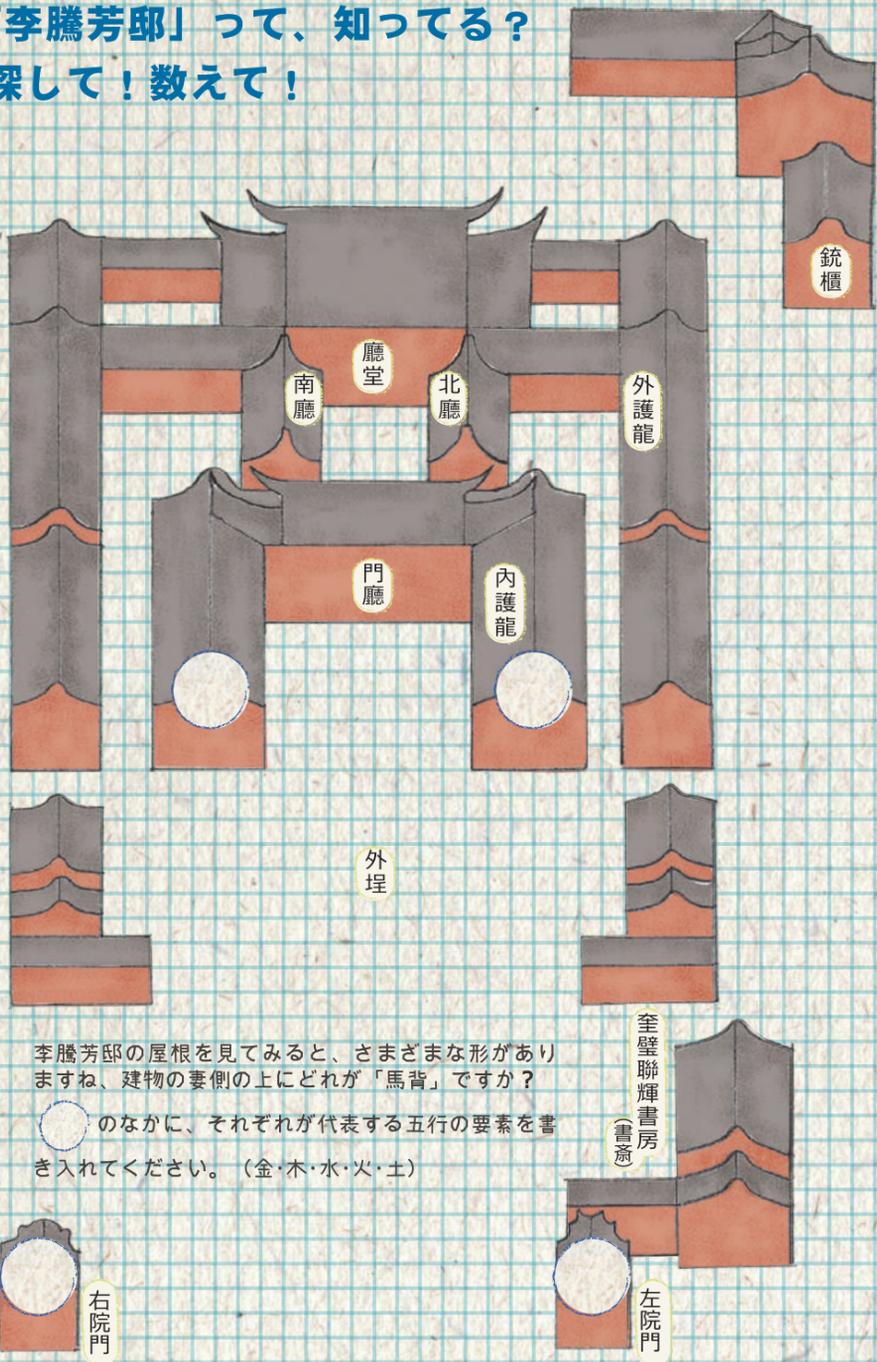


「李騰芳邸」って、知ってる？
探して！数えて！



李騰芳邸の屋根を見てみると、さまざまな形がありますね、建物の妻側の上にどれが「馬背」ですか？
のなかに、それぞれが代表する五行の要素を書き入れてください。(金・木・水・火・土)

国指定文化財



李騰芳邸

*** 子ども用 ***



昔は大料炭という川に海賊や土匪がたぐさんいて、貨物を奪ったことがよくありました。しかし、「李金興」の旗が掲げられる商船は貨物を奪られたことはありませんでした。それは善人の李家は、飢きんごときに倉を開けてこめを配って、貧しい人々を助けたことで良い名声を得ましたからです。そのときの大料炭から滙尾までの淡水流域では「川上は李炳生、川尻は李太平」ということが伝わっています。それは大溪の李家と淡水の李家がともに熱心で篤志な名望家ということを指します。

川上は李炳生、川尻は李太平



コメ屋を営む李家は、よく善行をしていました。貧しい人がコメを買いに来る場合、こ馳走したり、より多い量のコメをあげたりしていました。

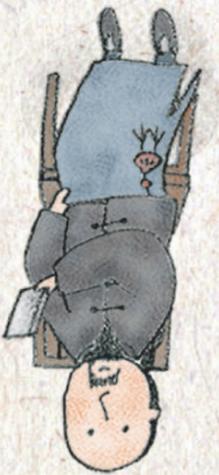
李炳生は子どもころから、よくお母さんを手伝うために牛をつれて田んぼへ行って田畑をたがやしていましたが、街なかで豚肉を売ったり、ホラカいを吹き鳴らして、人々を引きつけたりしていました。



李邸は1860年に着工し、1864年に完成した。李騰芳の邸宅は今は桃園市で、唯一の国指定文化財です。

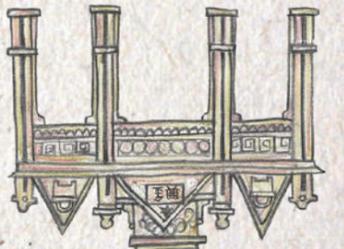
李騰芳は李炳生の三男で、本名は李有慶です。役人登用の試験——孝人に合格したとくに、皇帝から官章をうけ、「騰芳」と呼ばれるようになりました。李騰芳は1856年に43歳で秀才に合格して、1859年に貢生に選ばれ、1865年に52歳で21位として挙人に合格しました。いまの邸宅の外埕では二つのヘアの旗桿座という施設があって、それは孝人の登用を誇示したもので、家族の誇りとしての象徴です。

李騰芳の邸宅



清朝時代に、李騰芳の先祖である先抓は月眉というところで開墾しました。しかし、先抓公が若いときになくなりましたので、奥さんの廖湊と三人の息子の生活がとも辛かったです。李騰芳のお父さんの李炳生は先抓公の長男です。家長の炳生は大料炭淡水運の利便性を活かして、艚舢、滙尾の間でコメを売っていました。のちに、家業が盛んになったことで大溪の町で「李金興」という店舗を建てました。

李金興家族の歴史・沿革





李邸の中庭で三献礼祭典での最も重要な儀式——祈禱文を読み上げは、献者三人と陪祭によってすすめられています。毎年秋の収穫時期になると、李家は豚と羊を一匹ずつ用意し祭礼に供えます。中庭においてある供え物は、いまは豚や羊の代わりに麺類で作られたものを用意します。儀式が終わったらこの豚や羊の形した麺類を皆に分ける。それは子孫への祝福を与えることを意味します。



李金興家族の三献礼祭典

毎年の旧暦お正月と春分、秋分の時、月眉というところにある李騰芳の邸宅では家族の祭礼を行います。それは李騰芳が国の試験に合格したことで、家族の地位をあらわすために三献禮という儀式を行い祖先を祀るのがその始まりだそうです。昔から続いているこの官賜儀典によって、李家の子孫たちは毎年李邸にもどって祭礼に参加します。祭礼は李家の主催で例、礼、儀、典にもとづいて行われ、李家族の大溪地域での栄耀と重要性を伝えています。年に三回行われる三献禮祭典で、旧お正月の一回目は先祖の李先抓の妻子である廖湊（諡号が裕徳）の命日ということで、ご先祖の貢献を記念するために決められた祭日です。



うえを見て！ 李騰芳邸の屋根

李邸建物の屋根は、台湾北部でよく見られる切妻づくりの屋根です。また、よく李邸の建物を観察してみると、棟木のうえにある「屋脊」と呼ばれるものは「燕尾屋脊」と「馬背屋脊」の二つの形式があります。



燕尾屋脊

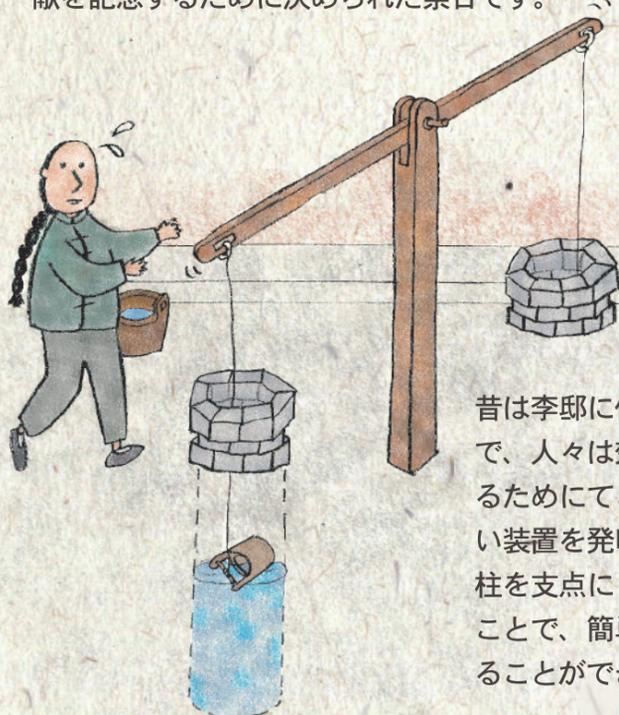
燕尾翹脊は举人邸宅の特徴です。その形がツバメの尻尾に似ていることから「燕尾翹脊」と呼ぶようになりました。李邸の建物群のなかで、廳堂と、門廳、そして両側の廂房（真正面の両側に立つ建物）が「燕尾」を持っています。なかでも、廳堂のほうをみると、上方に曲がる燕尾のカーブが鋭くて、力の強さを表していることが分かります。それに比べて、門廳のほうがゆるくみえます。また、気づきましたか？左右両側の廂房の燕尾が、わりと太くて短いですね。



馬背屋脊

李邸の建物の屋根は、廳堂と、門廳、南廳、北廳を除いて、みな馬背式屋脊の形をしています。勾配や構造様式はほぼ一緒ですが、妻側である「山牆」には違いが見られます。「馬背式」屋根の棟木は、金、木、水、火、土の五つの類型あり、その造型は風水の書籍に記載された「金形圓、木形直、水形曲、火形鋭、土形方」という記事の内容に基づいて考えられたものです。

井戸水の汲み上げ



昔は李邸に住んでいる人が多かったため、人々は効率的に井戸水を汲み上げるためにこの原理を利用して、新しい装置を発明しました。この装置は木柱を支点にして、水桶を作用点にしたことで、簡単で速やかに水を汲み上げることができました。

